

札幌組報



なごみ

2016年03月31日

第54号

浄土真宗本願寺派北海道教区

札幌組実践運動委員会

広報委員会

札幌組 HP

<http://www.onishi.or.jp>

札幌組執行部 退任のご挨拶

思い起こしますと、平成24年4月1日より札幌組々長に選出され、副組長 竹澤一深氏・高塚淨正氏・佐々木恵眞氏、また、「御同朋の社会をめざす運動（実践運動）」組委員会副委員長に石堂了正氏と共に、札幌組執行部がスタートいたしました。

この4年間、宗門基本法規の施行に伴う宗務組織の改正、従来の基幹運動から新たに始動した御同朋の社会をめざす運動の事業などが、各部長さんを中心として有意義に推進されてきました。しかしながら、まだ実践運動委員として参加される方が少なく、お世話する委員も偏るという課題も露呈してきました。次年度には、より多くの委員の参画を念願致します。

また、その中にあって寺族婦人会創立50周年の記念式典は多くの喜びのなかで行われましたこと記憶に新しいことで有ります。

平成26年6月6日に第24代専如門主へ法統継承され、伝統奉告法要が本年より勤まります。御消息で「時代の変化に対応する宗門の新たな第一歩として意義を持つものであります」と表されています。札幌組も新しい組長、執行部のもと、時代の変化に対応して組の運営、実践運動の推進に努めていただきたいと思います。最後になりましたが、組内寺院の皆様の御協力に感謝申し上げます。



札幌組々長
本誓寺 野口 宗英 氏

組長の野口氏をはじめ、副組長 佐々木氏・高塚氏、副委員長 石堂氏の4名の執行部と、皆様のご協力を頂きつつ、力量のない私が無事に4年間の副組長を楽しく務めさせて頂きました。皆様方のご協力に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。今後は組の為、皆様と共に執行部に協力し、盛り上げていきたいと思います。



この度の4年間の任期は、野口組長・副組長両氏、そして、組内の皆様のご指導のおかげで、無事に務めさせていただきました。
今、退任にあたり思うことはただ感謝のみです。
ありがとうございました。

札幌組副組長 広大寺 佐々木 恵眞 氏



札幌組副組長
松雲寺 竹澤 一深 氏

平成17年より、野口宗英組長執行部で2年、藤田憲昭組長執行部で5年、そして、この度の執行部で4年、合わせて11年間に亘って副組長の任に就かせていただきました。私は主に庶務担当でしたが、おかげさまで多くの方々のご尽力をいただきました。この間、組についても多くを勉強させていただきました。ご指導、ご協力をいただきましたご寺院・ご住職・皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



札幌組副組長
千正寺 高塚 淨正 氏

任期を終えて

御同朋の社会をめざす運動（実践運動）委員会 副委員長退任のご挨拶

野口組長をはじめ執行部の先輩諸氏に助けられながら、副委員長という新しい立場でしたが、何とか任期を終えることとなりました。宗派・教区・そして組の体制も移り変わる中、模索の中での4年間だったと思います。

教区委員会の常任委員や僧侶研修部など多方面での会合も多く、多くの方とご縁をいただき、学ばさせていただくことも多かったと思います。

この4年間で学ばせていただいたことを機縁として、今後も組の運営に協力させていただきたいと思います。4年間大変お世話になりました。

札幌組 御同朋の社会をめざす運動（実践運動）委員会 副委員長
真願寺 石堂 了正 氏



教区会議員退任にあたって ～コンフォーミズムへの危機感～

2期9年間に亘って教区会議員を務めさせていただきました。この間、宗門にあっては平成23年『親鸞聖人750回大遠忌法要』のご勝縁から、昨年の『専如ご門主法統継承式』を経て、今秋から勤修される『伝灯奉告法要』に至るエポックメイキングな時期に身をおくことができました。また、教区においては連続差別事件が惹起される中、《基幹運動》の推進と検証が図られてきました。長年の取り組みはテキストにまとめられ『17年の総括と現状』という差別学習プログラムとして提起されましたが、一連の卑劣な事件は深い傷跡を残したまま《御同朋の社会をめざす運動》へと転換されてきました。

この3月で満5年が経過した東日本大震災と東京電力福島第一原発の惨禍は、死者・行方不明者は2万人を超え、今なお約17万人の方が全国で避難生活を続けています。そんな中で、天災と人災の狭間で翻弄される人々の苦悩に寄り添う、北海道教区の様々な復興支援、人道支援は宗派が掲げる重点プロジェクトの先駆的な取り組みとして、しっかり位置付けられると思います。しかしながら、一教区会議員として、敢えて自身を総括しておかねばならない課題も残されました。それは、教区、引いては宗派に抱かざるを得ない無力感、閉塞感です。これは身から出たサビと言えなくもないのですが、目の前に敷かれた既成実に安易に身を委ねる大勢順応主義＝コンフォーミズムに陥っていないかという危惧です。

久し振りにこれまでの教区会の議決議案書に目を通してみました。基幹運動から御同朋の社会を目指す運動へと表現は変わりましたが、その内容・発想に変革の意気込みは感じ取れないので。そして議案の採決には「満場一致での賛同」が必ずと言っていいほど求められます。あらゆる価値観が流動化する社会システムの中にあって、教区会の目指すところは宗派の意に沿った現状維持と予定調和なのかも知れません。私の発言は時として少数異見、不規則発言の指摘を受けたりもしましたが、沈黙化する教区会で様々な意見が交わされて然るべきとの思いから、敢えて怒りの発露を会議に向ける愚挙を重ねてまいりました。

昨年は宗門僧侶による凶悪事件、不祥事が相次いで起こりました。できれば忘れててしまいたいような忌まわしい事件も惹起されています。教団を挙げて進めている「宗門総合振興計画」の「信頼される僧侶、住職の育成」からはほど遠いわが身に置き換えて、謙虚にお念仏の道を歩まなければと自戒させていただくばかりです。（称名）

教区会議員 浄楽寺 木村 良磨 氏



札幌組 御同朋の社会をめざす運動（実践運動）委員会 報告

福島県浪江町の常福寺御一行が札幌参拝

札幌組における「御同朋の社会をめざす運動（実践運動）」では、東日本大震災の被災地支援を続けて活動してきました。プロジェクトとしては、被災された寺院の境内清掃や法要参拝、あるいは腕輪念珠作りなどのボランティア活動を実施してきました。

このようなご縁から、この度、福島県浪江町常福寺の皆様が「支援していただいたお礼に」と、平成27年8月20日より札幌へ御礼参拝旅行に来くださいました。常福寺廣畑住職ご夫妻・小黒仁総代含む一行10名の皆様は、まず真願寺を参拝しました。廣畑住職からは、お礼のご挨拶や震災時の状況の報告をしていただきました。その後、札幌市内のホテルにて札幌組主催の歓迎交流会が盛大に行われました。翌日一行は、札幌別院と證誓寺を参拝の後、登別温泉で疲れをほぐし、福島への帰路へ就かれました。

常福寺廣畑住職のお礼のご挨拶には、「私達は御同朋の社会の中で生かされている。皆さまのご支援で未来に向けて前進するお力を頂いております」という言葉や、「被災地は瓦礫処理が未だ進捗中で、帰還はまだまだ難しい」という厳しい現状も聞かせていただきました。改めて、御同朋のご縁の有難さと、支援活動の継続の重要性を痛感致しました。



札幌組実践運動委員会研修会

社会部・研修部活動報告

「原発出前授業」～福島のお話～



平成27年11月22日、札幌別院に於いて、研修部と社会部合同にて札幌組実践運動委員会研修会を開催いたしました。ご講師は川原茂雄師（札幌学院大学人文学部教授）をお招きし、3回目となる「原発出前授業」を講演していただきました。研修会では、近年報道では伝えられなくなってきた福島の現状や事故後の原子力発電所、放射能被害の状況を丁寧に説明して頂きました。原発事故や放射能被害の問題は、長い年月をかけて向き合う問題です。川原師は、今後の未来に向けた私たちの取り組み方を示して下さいました。「子供たちのいのち」、「未来」をしっかりと見据えて真剣に考えて行かなければならぬと感じさせられる研修会がありました。

研修部活動報告



「仏教からみた原発問題」

－震災から問われる宗教的課題－

研修部では平成27年7月13日、ホテルモントレエーデルホフに於いて、真宗大谷派法傳寺住職であり〈原子力行政を問い合わせる宗教者の会〉事務局長でもある長田浩昭師をお迎えして、講題「仏教からみた原発問題」－震災から問われる宗教的課題－について講演をいただきました。参加者27名で、改めて原発問題に向き合わせて頂きました。また、研修会終了後は、同ホテルにて懇親会も催されました。

札幌組 合同研修会 総代会・仏婦連盟・寺族婦人会・壮年の集い

～親鸞聖人と比叡山の修行～

平成28年2月9日、センチュリーロイヤルホテルに於いて札幌組合同研修会が開催されました。

ご講師に本願寺勸学・叡山学院講師・龍谷大学教授の淺田正博師をお迎えし、「親鸞聖人と比叡山の修行」の講題にて講演をいただきました。今日の比叡山に残る修行を通して当時の親鸞聖人を類推されながら、秘蔵のスライド写真を交えつつ、千日回峰行の詳細や常行三昧堂の内部構造などを解説いただきました。教えるうえでは誰でも仏になることができる「天台一乗の教え」ですが、修しきれない行者や道なかばで断念せざるを得ない行者もまた存在した…だからこそ「生死出づべき道」を求めて比叡の山を下りられ、阿弥陀仏の本願力によってのみ救われていく「本願一乗の教え」へと至られた親鸞聖人のお姿が、しみじみと偲ばれるようでした。限られた時間でしたが、ご講師の50年間に亘る天台教学の研究が一時間に凝縮された、非常に濃密な研修会でした。



研修会ではスライドを見ながら講演いただきました



左上：講演後のご講師を囲んでハイチーズ！／中上：ご講師の浅田正博師／右上：合同研修会とあって会場一杯の参加をいただきました／左下：懇親会の様子／右下：寺族婦人会によるビンゴ大会、最後はジャンケンで決着です。

寺族婦人会より ご報告

札幌組合同研修会において東日本大震災支援金のご協力をお願いしたところ

【東日本大震災支援金】68,092円

をお預かりいたしました。

この場を借りてご報告いたします。

ご協力誠にありがとうございました。



佛教婦人会連盟研修会

婦人部活動報告

摂取不捨の本願と『方丈記』鴨長明

平成 27 年 6 月 18 日、札幌別院に於いて佛教婦人会連盟の総会後、会員他 150 名の参加をいただきまして研修会が開催されました。

ご講師には、空知北組正信寺住職 西川徹真 師をお迎えし、「摂取不捨の本願と『方丈記』鴨長明」の講題で、鴨長明と將軍源実朝との関係や、法花堂に揮毫した一首の和歌と『方丈記』についてお話をいただきました。『方丈記』は、現代の国文学研究において「遁世した暇人の隨筆」と解釈されることが多いのですが、ご講師の西川師は真宗学と深い文学的知見から解釈されました。講演では、法然聖人・親鸞聖人の流罪赦免に貢献し、その歴史的事実を後世にひそかに伝えた仏弟子「桑門の蓮胤」こそが、方丈記作者の鴨長明であると結論づけられました。

鴨長明の行動や和歌、書などに散りばめられたメタファーを紐解かれ、800 年間解明されていない流罪赦免の経緯に新たな角度から光を当てた学説でした。世に発表する前の学説をご教綏いただいた貴重な講演会となりました。



壮年部活動報告

札幌組「壮年の集い」開催



平成 27 年 7 月 26 日、札幌組「壮年の集い」を真照寺様を会場に参加者 45 名で開催致しました。この度は、教区壮年連盟からの報告、第 21 回全国佛教壮年大会報告を行い、併せて、昨年度 2 月に開催された「第 13 回北海道教区佛教壮年研修大会」の報告会並びに反省会を行いました。また、大会を記録したビデオを鑑賞し、今一度、皆様と共にその様子を楽しみました。

その後、ジンギスカンピアホールにて懇親会が行われました。大きな大会を会員の皆様の力で開催できた喜びと、今後の佛教壮年会の単位会登録の増加を念願し親睦会は盛会に行われました。

『ディキャンプ～自然の恵み、いのちの育み～ vol.2』 青少年部活動報告

平成 27 年 7 月 11 日、南区にある八剣山果樹園に於いて、寺院子弟を対象とした「ディキャンプ～自然の恵み、いのちの育み～ vol.2」が開催されました。今回は 29 名（大人 18 名・小人 11 名）のご参加をいただき、さくらんぼ狩り、バーベキューやbingoで楽しく盛り上りました。最高気温 30 度を超える中で、美味しいさくらんぼをたくさん採って食べ、またお腹いっぱいになるまでバーベキューをいただいた後は、bingo大会！みんなで和気あいあいと楽しい時間を過ごしました。子供達と触れあう時間がなかなか取れない昨今、様々なイベントを通して、一人ひとりが問題意識を共有し、共に歩んでいることを実感していくことが大切なことだと思います。



札幌組 寺族婦人会 創立 50 周年

復興を願って～仙台・福島・平泉の旅～

寺族婦人会は、上山かつ子 会長のもと、創立 50 周年という大きな節目を迎えました。平成 26 年 12 月 13 日、記念法要は本願寺札幌別院 黒田正宣輪番導師にてお勤め、式典を挙行しました。また同日、パークホテルにて祝賀会を開催致しました。僧侶でありながら、スタジオジブリ『かぐや姫の物語』の主題歌や多く CM 等に楽曲に提供する二階堂和美さんを招き、ミニコンサートが催され、大変盛大な会となりました。



50 周年の記念事業としては、東日本大震災の復興を願い、平成 27 年 4 月 26 日より 14 名の参加を頂き 2 泊 3 日の被災地研修旅行を実施いたしました。

初日は、名取市閑上地区・仙台別院・ボランティアセンター・専能寺を訪れ、災害についてや復興支援活動等の説明をいただきました。2 日目は、相馬市千客万来館（復興支援センター）・放射能汚染で全村避難地区的飯館村、真行寺を訪問しました。真行寺では、月 2 回、併設の幼稚園に通う園児の母親たちが青空市場として物資提供のボランティア活動を続けていました。最終日は、被害が少なく世界遺産でもある平泉中尊寺を訪れました。

短い行程のなか、多くの事を学んだ研修旅行でした。また、未だに放射線の線量計をいつも気にする生活の様子を目の当たりにし、改めて支援活動の継続を痛感したご縁がありました。



寺族婦人会より自主上映会のご案内

「小さき声のカノン」

寺族婦人会では、札幌別院を会場に『小さき声のカノン』を上映します。東日本大震災後も福島で生きていくことを決意する家族、福島の子供たちを応援する全国の人々、 Chernobyl 原発事故のその後。映像を通して「保養の大切さ」を語りかける映画です。この映画で福島の現実を知り、自分が出来る支援は何か、今一度考えるきっかけになることでしょう。ご門徒の皆さんをお説き合わせてご覧ください。どうぞよろしくお願ひいたします。

▶お問合せは、千正寺 高塚もも子 までお尋ね下さい。

日時：平成 28 年 5 月 30 日（月）11 時・14 時（2 回上映）

場所：札幌別院 1 階ホール 入場料：チケット 1 枚 1000 円





平成 28 年 2 月 20 日、江別市元野幌にある『陶芸工房 アトリエ』さまをお貸りして、「なむ茶カフェ vol.2」が開催されました。残念ながら、インフルエンザや溶連菌、ご葬儀などで来られなくなった方もいらっしゃいましたが、31名（大人 22名・小人 8名・乳幼児 1名）の方々にご参加いただき、2月という寒い時期ではありましたが、晴天の中、開催できました。

まずは陶芸体験！初めてという方多かったです。先生のご指導をいただきながら、それぞれに個性的な作品を作っていました。「難しい…」という声もありましたが、それ以上に「楽しい♪」という声が多く、有意義な時間を過ごしました。その後、隣接のファームレストラン食祭さまに移動して、カフェタイム♪

アトリエ陶さまで作られた陶器に盛られたアイスクリーム・パン・クレームブリュレを、コーヒー・紅茶と共にいただき、おしゃれな時間を満喫しました。記念品には、あみだ堂さまより腕輪念珠をご用意いただき、皆さんに喜んでいただきました。

これからのお寺を担っていく青少年達に、ほんの少しでも仲間やモノの大切さを知るご縁になればと思っております。



正信会 戦後 70 年－沖縄南部戦跡研修旅行－

平成 28 年 1 月 18 日から 3 泊 4 日、戦後 70 年という節目にあたり「沖縄南部戦跡」を巡る研修旅行を開催いたしました。研修には、旧海軍司令部壕・平和祈念公園・ひめゆりの塔などを巡りました。この度は戦後 70 年ということで、特別展などが催されており、その記録や当時の手記・証言ビデオなどを拝見して一同胸一杯になりました。改めて戦争の悲惨さや平和の素晴らしさを再確認させていただきました。

また、沖縄県は土着信仰が根強く先祖崇拜という形が強く護られているということで、漆器店（沖縄での仏具店）を視察しました。見たこともない豪華な位牌やタンスのような巨大な沖縄仏壇などに驚愕させられました。最終日には、建立中の沖縄別院に代わり、宗務事務所を訪れました。土着信仰の強い沖縄での開教の難しさや現状を聞くことができました。日々の伝道教化を模索する私たちにとっても、大変興味深いお話をでした。沖縄別院は今年 6 月には完成竣工の運びとなるようです。沖縄開教の基盤となって、ご縁が増えていくことと願っています。観光には万座毛・美ら海水族館・名護パイナップルパークなどを巡り、初めて訪れる会員もいて、とても楽しく和やかに時間を過ごしました。



研修部活動報告

札幌組物故者追悼法要

2016年1月29日ホテルライフォート札幌において、札幌組物故者追悼法要並びに新年会を開催致しました。

法要では、光明寺第三世住職 西井芳暎様、光顕寺第五世坊守 草薙愛子様、光顕寺第五世住職 草薙弘之様、信教寺第三世住職 石田瑛玄様の物故者追悼を執り行いました。お導師は本願寺札幌別院黒田正宣輪番、出勤法中は竹澤一深副組長、高塚淨正副組長の厳修のもと、4名のご遺族と20名の皆さまにご参詣並びにお焼香をいただきました。

新年会では、はじめに野口宗英組長にご挨拶をいただき、続いて黒田正宣輪番に乾杯のご発声を賜りました。締めくくりには、木村良磨教区議員に乾杯の発声をいただき、参加者32名とご一緒に組の発展と皆さまのご健康をお念じ致しました。



おくやみ 平成24年度～平成27年度にご往生の皆様

光明寺 第三世 住職

智證院釋芳暎 西井 芳暎 様
平成二十四年四月二十四日ご往生 行年 七十七才

光顕寺 第五世 坊守

慈光院釋尼愛楽 草薙 愛子 様
平成二十五年八月二十一日ご往生 行年 八十五才

光顕寺 第五世 住職

樹光院釋弘之 草薙 弘之 様
平成二十五年十一月十四日ご往生 行年 八十九才

信教寺 第三世 住職

澍信院釋暎玄 石田 暁玄 様
平成二十六年一月二十八日ご往生 行年 八十三才

勝圓寺 第三世 住職

蓮信院釋智亮 上山 智亮 様
平成二十八年二月八日ご往生 行年 九十二才

高恩寺 第三世 住職

寶奏院釋弘昭 増田 弘昭 様
平成二十八年二月十三日ご往生 行年 八十二才

覚英寺 第二世 坊守

寶樂院釋尼照信 海野 テル 様
平成二十八年三月十六日ご往生 行年 百三才

生前は札幌組のご法義発展に大変なご協力を下さいました。皆様のご尽力に感謝申し上げます。合掌

伝道企画部活動報告

「葬儀のしおり」をリニューアル!

伝道企画部では、組内での伝道教化の一端を担ってきた「葬儀のしおり」をリニューアルし、再び、葬儀のご縁に伝道の一助となるべく新たなしおりを作成させていただきました。

この度は、各寺院が必要に応じて、内容やおつとめ、紙の色等を選択できるようにし、独自のしおりができるようにさせていただきました。平成28年度より実働いたしますので、どうぞご活用ください。なお、ご注文は5000部以上よりお承りいたします。詳しくは伝道企画部まで。

内容などを選択して
オリジナルのしおりができます



編集後記 執行部をはじめ、各部会の皆様方におかれましても『札幌組報なごみ』編集にあたり、ご協力を頂き、誠にありがとうございました。また、各寺院の皆様のお力添えにより広報委員として携わったこと貴重なご縁がありました。次年度も『なごみ』をどうぞ宜しくお願い申し上げます。